

第39回里山一斉調査報告

文・写真

常俊容子(NOB、里山委員会)



茨木丘陵 キジ

第39回里山一斉調査は、新たに地域での活動が始動した「旧向井家住宅里山倶楽部」との共催で、民俗学的な記録が多く、大阪府初の重要文化的景観に指定された「日根荘大木の農村景観」を望む魅力的なフィールド「泉佐野・稲倉林道～小富士山コース」が加わり14コースを計画、3月23日～4月18日にかけて、13コースで実施し、のべ152名(うち～小学生4名、中学生1名、高校生21名)が参加しました。

昨年度は13コース計画し6コース実施(うち一般参加は3コース)、のべ29名が参加しました。

新型コロナウイルスの影響で日常が危うく、自粛が続く中でも自然の歩みは止まりません。今年の花暦は早く、サクラの開花のリレーも最終盤、ヤマザクラは葉桜、カスミザクラやウワミズザクラへ。

鳥ではオオルリが能勢・妙見、箕面・オケ原、八尾・高安山で、ヒバリは泉南・畔の谷、枚方・穂谷で聞かれました。今回ソウシチョウ(特定外来生物)が確認されたのは池田・五月山、橋本・玉川峡です。

里山100選の枚方・穂谷では水田から畑作への変更や耕作放棄地が急速に増加、両生類の産卵等が見られた小規模なため池や水たまりは消失。景観の様変わりにより生態系の劣化が懸念されます。

大規模な彩都の開発後も新名神高速道路の開通や大型物流センターができるなど、さらに改変が進む茨木丘陵・鉢伏山では、ナルトサワギク(特定外来生物)は当初の繁殖エリアでは減少傾向である一方、新たな法面や裸地では繁殖拡大しており、人為の攪乱による侵入が顕著です。昨年は在来種との雑種化が進むことから特定外来生物に指定されているオオカワヂシャが農道や畦畔で初めて確認されています。

大阪では貴重な草地性、湿地性環境から生物多様性保全上重要な里地里山に選定されているホットスポット和泉・信太山では今回も参加者が驚くほどの多くの植物種数が確認されました。

動物では四條畷・田原の里でブラックバスやウシガエルのオタマジャクシを確認する一方でこの2、3年ヤマトサンショウウオの卵塊が確認できていません。アライグマが確認された泉南・畔の谷ではリスの食痕エビフライが見られず、堺・鉢ヶ峯では今回初めてヒミズを確認しました。

アナグマは箕面・オケ原で巣穴確認、能勢・深山、泉南・畔の谷の古巣はどうやら今年は使われていない様子です。

北摂の能勢、箕面、池田をはじめ、コースのエリアに防鹿柵が設置



茨木丘陵 特定外来生物オオカワヂシャ



穂谷 イズセンリョウ



四條畷 山道を行く



四條畷 チゴリ



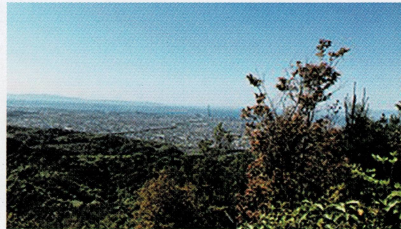
八尾・高安山 住宅街を抜けた西方を望む、ソーラーパネルが当世風



堺・鉢ヶ峯 ヒメズミ



和泉・信太山 惣ヶ池湿地



泉佐野 小富士山より閑空方面を望む



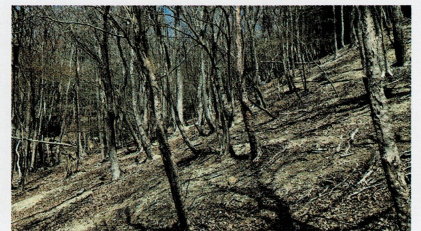
小富士山より大木地区を望む



イノシシのヌタ場 (近隣で豚熱確認!)



能勢・深山 府県境のススキ原(元ササ原)



クリ林

されている橋本・玉川峡でもシカによる採食圧や踏圧による植生への影響が顕著です。

シカと森林の関係がテーマのコース、今回は大阪府の最北、標高790.6mの能勢・深山へ。府内では1980年代よりシカ高密度と推察され、府県境に広がっていたチマキザサが2004年頃一斉開花～枯死後はススキに移行、一部でササの回復は見られますが、一帯の土壤流亡、林床植生の劣化は進行しています。当地では元クリ林が戦前用材として皆伐された後、播種によるマツの造林を試みたとのこと。その名残りか？ 今や珍しいシバグリと思われる栗林を確認しました。

参加者からは、いつものルートなのに今までこのような自然に全く気

づかなかったという声、また生物系クラブの高校生の参加でお互いに様々な発見があったというコース。

自然による攪乱を受けた森林の遷移を観察する面白さ、人為に起因する外来種の影響、土地改変などで危惧される自然の質の劣化も含め、それぞれの地域らしい身近な自然に気づく春の一日です。

年に一度ながら、一斉調査を継続し、積み重ねることの意義を再認識しました。

●トピックス●

「豚熱」(当初「豚コレラ」といわれていた)は、豚、イノシシに特有の致死率の高いCFSウィルスによる感染症で、2018年9月、日本では26年振りに岐阜県で発生、大阪では昨年11月に茨木市で野生イノシ

シに確認されて以降、農水省の防疫方針により、昨秋、経口ワクチンベルト(防疫帯)が設置されましたが、突破され西進、現在兵庫県で拡大中です。養豚場ではワクチン接種が進んでいます。

里山一斉調査のコースのエリアでも野生イノシシの罹患が確認されており、ハイカーや狩猟者は感染拡大防止のため、当該地に入った際は帰途靴裏を洗う、車のタイヤを洗う、などの対応が求められています。しかし、リアルタイムで情報が行き渡っておらず、野生イノシシに関して対策が十分であるとは言いがたい状況です。大阪府のwebサイトでは情報が更新されていますので、フィールドに出るときはチェックをお勧めします。

